

7月2日、アメリカ合衆国西部で購読されている日刊紙『ロサンゼルス・タイムズ』が、つくば市谷田部にある「プレミエール元気館」と「サンシャイン・ヴィラつくば倶楽夢」に来館し、テクノロジーが支える介護現場を取材した。

同紙は、カルフォルニア州・ロサンゼルスで発行され、発行部数は72万部で合衆国内第4位、同国の地方紙としては、ニューヨーク・タイムズに次ぐ規模。
(ウィキペディア抜粋)



▲HAL トレ後に取材を受ける利用者様



▲「パロ」 ※写真は取材時のものではありません

取材では、HAL 腰タイプ自立支援を使った「HAL トレーニング」の内容や効果、実際の訓練を見学。トレーニング後には、利用者や介護士へのインタビューをおこないました。また、セラピー効果のある「パロ」を手に取り触れながら、その愛らしさには目を細められていました。

母国での同様な施設現場の人材確保や給与水準を例に出しながら、日本の医療介護をとりまく現状や課題、介護ロボットの導入経緯や経過と費用、スタッフの意識や利用者の満足度、また日本の介護制度や今後のロボット普及見込みなど様々なご質問がありました。

突然の取材でしたが、G20 メディアセンターの効果でしょうか？

日本のテクノロジーが導く新しい高齢化社会が注目されているようです。